

「須恵器」に触れてみませんか？

「須恵器」とは、古墳時代から平安時代にかけて広く普及した青灰色の硬質なやきものです。

ロクロによる成型技術を用い、丘陵の斜面を利用して築かれた窯（あながま）で焼かれたのが特徴です。本格的な窯の導入によって、従来の野焼きでは達し得なかつた約1,100度の高温度焼成が可能となり、焼成の最終段階で窓を開閉することで胎土中の鉄分が還元され、須恵器特有の青灰色で非常に硬い器が生み出されました。

市内では近江最古の須恵器窯と位置付けられている、泉古窯跡（水口町泉）があります。泉古窯跡は、水口丘陵の南斜面に築かれ、杯（蓋・身・高杯・甕・壺など）が焼かれていました。

これらの製品は大阪府の陶邑古窯跡群の製品にみられる技術や形態に類似しており、甲賀への技術伝播は陶邑から直接的に導入されたものと考えられています。

その背景には、当時最大の須恵器生産地であった陶邑古窯跡群を掌握するヤマト政権と甲賀の首長との密接なつながりがあったと推測されています。須恵器は単なる生活道具にすぎません。

こうした須恵器に直接触れていただけの体験イベントを、甲南ふれあいの館で開催します。本物の土器に触れ、手のひらでその重みや質感を確かめながら、歴史を感じてください。

「ほんもの」にふれる週末 さわってびっくり！土器ってこんなにおもしろい

日 時 2月21日(土)10時～16時
随時対応
(1回あたり10～15分程度)
場 所 甲南ふれあいの館
対 象 どなたでも
(お子さまから大人まで楽しめます)
参加費 無料・申込不要



問 歴史文化財課 埋蔵文化財係 ☎ 69-2251 ☎ 69-2293

みんなで公共施設



このコラムでは、市の公共施設のあり方とこれからについて、みなさまにお伝えしていきます。

vol.4
取り組み方針①

公共建築物の施設総量（総延床面積）の適正化

甲賀市が保有・管理する公共建築物の大半は整備から30年以上が経ち、今後はこれまで以上に公共施設等の維持管理に費用がかかると予測しています。

そのような状況の中で市では施設の廃止、集約化（統合）、複合化等により施設総量（総延床面積）及び配置の適正化を図り、持続可能な行政運営をめざしています。

複合化のイメージ



公共施設A
(面積) 500m²



公共施設B
(面積) 1,000m²



公共施設C
(面積) 1,000m²

公共施設AとBの機能を集約し、延床面積を削減!
維持管理経費の縮減や利便性の向上にもつながります。

問 マネジメント推進室 ☎ 69-2119 ☎ 63-4561



これまでの記事はこちら

共生社会の実現を!

手話で地名表現

手話では、さまざまな単語を表現することができます。そのなかでも、手話で地名を表現することをご存じですか。その土地を象徴する表現をいくつかご紹介します。

手話で身近な地名を表現してみませんか。



問 障がい福祉課 ☎ 69-2161 ☎ 63-4085